

狗摸

ならん、人の人に誑る、をばかざる、といひ、狐狸の人を魅するを、又ばかすといふ、ばかすは馬鹿にする也、馬鹿は秦の趙高が、鹿を指て馬也といはせし故事なるよしは、世俗をさくしれるなるべし、これら無益の辨なれど、筆の走るまゝに注しつ、

〔和漢三才圖會十人倫之用〕盜人偷兒 和名奴須比止俗云須里

按俗以盜曰須利申來蓋籠和名竹篋以為行旅之具、若盛水物、則竊洩去而籠乾譬之竊盜、終為盜謎乎、

勝切キンチャクキリ 交群集中、竊奪懷中物、剪取印籠巾、著謂之勝切、

〔燕石雜誌四〕又棍徒をスリといふ、郷談雜字に、談郷剪扭正音狗摸と出せしは是也、契冲河社に、兼盛集

なる、旅人はすりも、はたごもむなしきをはやくいましね山のとねたち、といふ歌を引て、籠字を當たり、亦學語篇には須利と書て梵語なりと注したれど、出處詳ならず、彼がすりちがひつ、ゆくさまにて、物とらんとするなれば、やがてすりといふなり、

〔種樹園法下〕然レドモ人ヲ讒シテ己ガ身ノ出世ヲ圖リ、或拐見騙兒カタリユスリヌリ、狗摸ヌリ、夜盜ヨトウ等ヲ働ク惡徒ト雖

ドモ、己ガ私曲ヲ人ニ隱スヲ觀ルトキハ、即是其内心ニハ、天命ノ四性具存シテ、其德ノ自明ナルノ明徴ナリ、

○按ズルニ、右ハ佐藤信淵ノ著ナリ、狗摸ノ狗ハ狗ノ誤ナリ、

〔大清律例集要新編二十四刑律賊盜下〕凡盜公取竊取皆為盜、公取謂行盜之人、公然而取其財、如強盜、槍

摸、皆名為盜、○下略

〔老人雜話上〕信長城を武衛陣ニ築き、公方をすへて慶賀の能あり、老人も四歳ばかりにて、乳母に抱れて見物す、其日信長は小鼓を撃れしなり、長岡山齋は老人より歳長し、六歳ばかりにて、狸々を一番舞れし、其時歸りに、門外にて盜人に後ろの紐を切られしことを覺たりと語れり、其比は